

千葉歴史・自然資料救済ネットワーク

千葉資料救済ネットとは

- 災害時などに、団体・個人による資料救済活動をスムーズに推進するために、**2012年3月に結成されたボランティア団体**である。**県内の関係機関・学会・自主的集団・他県の資料ネット等との連携を推進し**、有効な救助活動を実現することを目的に、**救済体系から漏れる恐れがある民間所在資料を主な対象**として活動する。
- **会員数は4団体・129名**（2025年1月現在）、2016年より共同代表を置き（工藤航平・小関悠一郎・檜皮瑞樹）、**事務局は千葉大学教育学部 小関研究室**に置いている。

2024年度の主な活動

「宮崎県立妻中学校関係資料」の移管

「宮崎県立妻中学校関係資料」とは

- **2016年の千葉県富津市菱田家**での資料保全活動時に発見。
- 菱田忠義氏が**妻中学校**（現・宮崎県立妻高等学校）の**教員**を務めたことに関係して伝存した、昭和13～15年頃の資料。
- 「**遠隔地所在地域資料**」（深い関わりを持つ地域から隔たった、直接的な日常的交流が非常に少ない地域に伝来・現存する地域資料）
- 学級日誌や学校行事関係資料、試験問題・答案、ポスター等の教材など、**妻中学校の学校運営に関わるもの**から、作文集、生徒の日記など、**生徒個人の学習活動に関係するもの**まで、多岐にわたる。
- 2024年2月の最終整理作業の結果、文書箱や段ボール箱など、**計24箱、資料点数1106点**にのぼった。



撮影：2024年8月14日 撮影：2024年8月14日

Press Release



旧制妻中学校関係資料の受け入れについて

千葉県内で、旧制妻中学校に関する資料が発見されました。発見された場所は、千葉県中総務部関係者から提供された、富津市菱田家です。当資料は、貴重な歴史資料として、県立図書館の資料として保存し、今後継承していくことになりました。

1.発見された場所

富津市菱田家（千葉県富津市）

2.故郷菱田氏について

大正3年千葉県富津市生まれ。平成14年没（88歳）。千葉県立千葉高等学校校長、千葉県立中央図書館長、千葉県立文化財保護課長

宮崎県によるプレスリリース（2024/8/5）

移管の完了まで

- 移管先が決まらない状況のなか、**2023年1月**に開催された「**第9回全国史料ネット研究交流集会在宮崎**」をきっかけに、**宮崎県立図書館での受入が決定**。
- **2024年7月上旬**に宮崎県を訪問、資料の受け渡しについて宮崎県立図書館と打ち合わせ。
- 2024年7月末に保管元の千葉大学より発送、**2024年8月5日に宮崎県立図書館に到着、移管完了!**
- 関連の深い地域で資料の保存・活用。**集会を通じたネットワークにより実現!**

宮崎：旧制中学資料「里帰り」 富津の郷土史家遺品、戦前の教員時代の記録 1000点、宮崎県立図書館に寄贈へ / 千葉

2024.08.14 地方版/千葉 17頁 (全901頁)

富津市出身で、戦前、宮崎県の旧制中学で教員をしていた郷土史研究者の菱田忠義氏（2002年に88歳で死去）が残した学校関係資料が、同県立図書館に寄贈されることになった。戦色が濃くなりつつあった時代のもので、生徒らが勉学を志した記録など当時の教育現場の様子を伝える資料は約1000点に上る。いよいよ郷土資料の「里帰り」で、地元で保存・活用してもらう。【小林多幸子】

菱田氏は富津市内の自宅や倉庫に膨大な歴史や民俗関連の資料を残した。関係者によると、15年ごろ、富津が建築物解体する意向であることが分かり、同市と千葉県、君津、袖ヶ浦の計4市の文化財関係者でつくる「君津地方社会教育研究会文化研究部会」が、資料の保存に取り組みすることになった。当時の部長だった木更津市教委の福澤昭昭さんは「菱田さんは上記地域の郷土史家の第一人者。一つの自治体や博物館で対応できる資料群ではなかった」と話す。

災害時などに歴史・自然資料の保全活動に取り組む「千葉歴史・自然資料救済ネットワーク」の協力も得て資料整理を進めると、菱田氏が勤務していた旧制妻立**妻中学校**（旧制）の資料も多く含まれていることが分かった。記録された時期は1938～40年ごろ。学級日誌や作文集、試験問題、教材、行事や学校運営に関する資料などで、生徒が書いた日記も含まれていた。

戦時体制が強化されていった時期で、同県の国民精神総動員運動で結成された「祖国新聞隊」で生徒たちが勉学努力に参加した記録などもあった。「質実剛健の気風」が教育目標に掲げられ、クラス名が漢文字をとって「真組」「実組」などと命名されていた。

今回の寄贈は、同ネットのメンバーで、資料の記録作成などにも関わった千葉大学教育学部の小関悠一郎准教授が、23年に宮崎県で開かれた研究会でこの「**妻中学校関係資料**」について発表したことがきっかけとなった。歴史研究の分野では、人の移動に伴い、資料とゆかりの深い遠隔地に移された地域資料をどう保存・活用していくかが課題になっているといい、小関准教授は「ネットワークを生かして、関連の深い地域に資料を受けとってもらえることは最高」と話している。

毎日新聞「旧制中学資料「里帰り」」(2024/8/14)

芝山町での資料レスキューへの協力

- **2024年4月20日**に勉強会を開催。**相川陽一氏「成田空港第三滑走路建設に伴う文化財保存について」**
- 2024年9月、**北総ネット**に協力し、資料レスキューに参加。（レスキュー活動の詳細は、北総ネットポスターをご参照ください。）

千葉歴史・自然資料救済ネットワーク 2024年度総会・勉強会



勉強会の様子

お問い合わせ

事務局 〒263-8522 千葉市稲毛区弥生町1-33
千葉大学教育学部小関研究室
電話番号 043-290-2550
メール chibasiryounet@gmail.com

ブログ▶



X (旧Twitter) ▶

